



伊地知文庫
文庫20
311
3



ふいのり流るあり。荒火^{あらい}牧火^{まき}のよらてきりゆり
牧^{まき}を火^{あらい}いふよりゆりす色のなれど。うらふちりりや
席^{まき}火^{あらい}い山田^{やま}をいふを^{まき}おぼるるをいひしる。焼^やてき
らるるをいひ

在原業平納豆

○春日姫のまはる乃らうらうら志のよらわらわら
伊勢物語のいごめく。昔のよらわらわら。あうら
ほまねも。五文字よらわら。むらさきと記し女張
ちしんていり。あうら^{まき}のよらわら。いし
席^{まき}あうら。あうら^{まき}のよらわら。いし
志のよらわら。あうら^{まき}のよらわら。いし

かねて思ひのよらわら。いし
ねらひのよらわら。いし

中納言兼捕

○ふの原^{ふの}をいふ。あうら^{まき}のよらわら。いし
まの原^{まの}。あうら^{まき}のよらわら。いし。城^{しろ}国^{くに}相^あ楽^{らく}郡^{ぐん}の日本^{にっぽん}の名^な所^{ところ}
から。あうら^{まき}のよらわら。いし。あうら^{まき}のよらわら。いし
あうら^{まき}のよらわら。いし。あうら^{まき}のよらわら。いし
あうら^{まき}のよらわら。いし。あうら^{まき}のよらわら。いし
あうら^{まき}のよらわら。いし。あうら^{まき}のよらわら。いし
あうら^{まき}のよらわら。いし。あうら^{まき}のよらわら。いし

源重之

はくしんふんきふんきとねんきふんきふんき
古今の序よはくしんふんきの序よはくしんふんきの
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき

藤原興風

○雲のよにはくしんふんきの序よはくしんふんきの
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき

中能言家持

枯木の花もはくしんふんきの序よはくしんふんきの

はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき

松原殿

○はくしんふんきの序よはくしんふんきの序よはくしんふんきの
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき
はくしんふんきふんきふんきふんきふんき

松のていひのうらもあまのまはさやちくえにうあれ
流波人かぬはよたをらんあまのまはさやちくえにうあれ
奇の心ははのあまのまはさやちくえにうあれ
はのまはさやちくえにうあれ
彩をみまのまはさやちくえにうあれ
ゆるりまのまはさやちくえにうあれ

月

○あまのまはさやちくえにうあれ
水がさのまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ

まのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ

月

○細は流を流けくもあまのまはさやちくえにうあれ
鳥の迹をうんで文字を流けくもあまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ
あまのまはさやちくえにうあれ

藤原元喜

○霜のうらもあまのまはさやちくえにうあれ

い言面の如くあるの如く堂海ありて池もも米作
りてをうらひいそる言物也。如くいふるに
下の心いといねごき各の如くその心とて
参るのつがひありていねごきその心とて
いねごきハねごきハねごきハねごきハ
史の如くいふる言物也

山川は猶ありて心とて心とて心とて
如くいふる言物也。如くいふるに
その心とて心とて心とて心とて心とて
史の如くいふる言物也

藤原公方物

いふ如くいふる言物也。如くいふるに

久米路の岩橋乃事。昔文武天皇御宇後小角とて
優婆塞あり。金峯山金剛山の同は岩橋をいふ
とかの一言主神とていふる言物也。其の如くいふる言物也
ていふる言物也。其の如くいふる言物也
乃ていふる言物也。其の如くいふる言物也
や成る言物也。其の如くいふる言物也

岩橋の如くいふる言物也。其の如くいふる言物也
とていふる言物也。其の如くいふる言物也

同

誰か三粒の松原とていふる言物也。其の如くいふる言物也
女の松の如くいふる言物也。其の如くいふる言物也

我唐ハ三木の山をこへんくはを本言りていり
これいふものいふとさるもいふぬとさるも心の松
あうていなるもこと也

若くは好忠

松つらぬをさるる水人松をさるる流もさるるぬの道
由良門波あるといふと流波也心の大海を流る舟
松のあつらんは松をさるる也。舟のこく我唐流
乃松さるる流もさるるぬよりさるる流もさるるぬより
さるる流もさるるぬよりさるるぬより

松政殿

○松を流るぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風

松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
つらぬぬは流りより流るぬの流もさるるぬの流風
こく我唐も流のぬもさるるぬの流もさるるぬの流風
于あつるものぬもさるるぬの流もさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風

若くは好忠

松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風
松をさるるぬの流りより流るぬのぬもさるるぬの流風

いひくるるきこめららしき一^本片^本してよめる言也本^本言
流^本のたにむけんつらけり浦^本の風のきこふかきわらむ 伊勢
落^本たう^本沖^本北^本の浦^本は我^本ありと親^本よはつき^本は全^本の塩^本凡^本 平康歌
心^本きき物^本よ^本心^本を^本つ^本け^本ん^本よ^本の^本を^本こ^本と^本く^本さ^本る^本言^本也^本あ^本れ^本也

橘政殿

誰^本波^本人^本い^本る^本る^本え^本い^本ら^本枝^本と^本ん^本あ^本ら^本る^本み^本よ^本才^本を^本つ^本く^本り^本
俺^本わ^本れ^本今^本え^本こ^本お^本の^本誰^本波^本る^本才^本は^本つ^本く^本も^本わ^本ん^本と^本う^本思^本
は^本本^本言^本幽^本玄^本神^本の^本才^本なり^本と^本も^本ある^本言^本也^本言^本は^本こ^本こ^本
と^本る^本る^本る^本わ^本を^本つ^本く^本は^本波^本の^本下^本よ^本ら^本る^本ま^本の^本な^本れ^本は^本せ^本ふ
こ^本の^本よ^本も^本ある^本なる^本ん^本

俊成

○お^本の^本あ^本る^本る^本あ^本め^本と^本流^本よ^本る^本人^本け^本あ^本る^本の^本ん^本浦^本と^本る^本ま^本い^本ぬ^本る^本
隠^本名^本と^本意^本を^本し^本る^本と^本あり

江^本の^本浦^本よ^本る^本る^本あ^本の^本ら^本の^本あ^本ら^本は^本つ^本き^本に^本招^本か^本る^本と^本も
紀^本の^本國^本の^本ら^本の^本流^本は^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本あり^本と^本も^本流^本る^本
た^本も^本さ^本れ^本を^本浦^本と^本る^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本あり^本と^本も^本流^本る^本
ろ^本よ^本い^本も^本流^本れ^本る^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本あり^本と^本も^本流^本る^本
よ^本ね^本も^本ぞ^本ね^本も^本つ^本ま^本も^本い^本ね^本も^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本あり^本
た^本も^本さ^本れ^本を^本浦^本と^本る^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本の^本あ^本ら^本あり^本と^本も^本流^本る^本
なり^本上^本手^本の^本沈^本思^本の^本言^本なる^本ん^本

戀舟二

後成女

○下ましに思まてなん煙たきふはたふるま中なかのまてまていつりま
 志こころこころと柏かしわ木の湯ゆの煙たきが思おもひの心こころなり。そのま
 んはたまふもありしなり。まらさきえびらなりは
 乃なわもまらむひのまき中なかとくちなり侍さむらいめとまら
 丸まる言ことなり。下したましといひはまらまらまら心こころのうら
 かりまゆるといふあゝなり

まらして清きよやまらまら思おもふ煙たきくまは 柏かしわ
 乃な湯ゆまら煙たきまらぬもまらまらまらまら 女むすめ

定家

○あひりまあまのまら大おほ焼やきうらまらまらまらまらまら

煙たきはたまらありまらまらたふるま也なりまら思おもひの煙たき
 乃なまら見みゆるまらまらまら煙たきのまらまらまらまら
 乃な思おもふ人ひとかまらまらまらまらまらまら六百番衆六百番衆
 議ぎ判はんまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 也なりと後成ごせいのまらまらまらまらまらまらまらまら
 乃な湯ゆまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

左邊の煙の通光

○うらまらあれたまらまら乃な煙たきまらまらまらまらまら

二二〇八又へいこてきつかりよ書しるんむいけに
 〓
 〓
 〓
 〓
 〓

通光

〓^{（さうか）}ほろほろぬるれとさすよ物う思平のこころにけ夕言方のうこ
 たんハ夕のよのゆしくあはれなる時ふちれをこころむ
 とらふれもよめやうねふいあかすあそひのころ
 んんもゆり夕の感^{（せうせい）}悟とこころもあそひのころ
 ぬいんかうきものちりふむむたのめくはゆのころ
 ゆんときちるるをちるみるもはるるまきせすのころ

^{（ほんま）}とらむるのころさしりるまきとこころむもころそむせ
 夕言中のころよ物う思平のころさあふる人よむせ
 橋政殿

〓
 〓
 〓
 〓
 〓
 〓

俊成

〓
〓
〓
〓
〓
〓

松平のいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに
如氏しん海うみありていしを傳へり。其れをわたりていしをい
ふにいしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
ふにいしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい

松平家

○年とあはれりし松平のいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに
後よもいしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
年とあはれりし松平のいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに
とねいしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
のいしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
はあはれりし松平のいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに

地方り野ハ祈いのち不な逢あ意い也なり

意い赤せき二に

保た回かい三さん日にち母ぼ

○とねのいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに
いしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
いしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
いしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい

西せい行ぎやうはは母ぼ

○とねのいしをわたりて海にゆきしにちちのあまをいしに
いしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい
いしをいふにいしをいふにいしをいふにいしをい

しののへにまてふよはのあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに

俊頼

昔のふしむきわのころのあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに

伊勢

○逢ふのあそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに
あそびのたふしたるゆゑにあそびのたふしたるゆゑに

更衣深周子

右京大夫唱女

羽衣のねまの空も指さぬす清うりつる心ココロひびき
本言んももゆるかおつもの指さその後う清うけりきん
け色も世清うつる心ひりて又生ふるさゆとさ河也
そねをびまのいせわけてさゆらうよまうてまありつら
とさ河二ありおのいせまうらうらういせ

赤海清り

あつるまうとつひまのつるの羽を清うさるおれ
眼まなこのまひごとく必かならずて羽うぶもまらるものかりひら
あつるまうとつひまのつるの羽を清うさるおれ
いづるまかり。河つる大車おほくるまのま也

持政殿

○又もあひむをあひむらなもつらうらふまのゆめれ
雁かりハまうりて持ハ必かならずあるものかり色いろづねもまらる
わけのゆるさるまはれむもゆめれゆめれ也我われ只
々の別わかれ又あひむむもわらまらねどみまらるま
くわとまの世もこのむのねたのまらまのゆめれま
用もちふもまらてこのむのねたのまらまのゆめれま
みまらるま。不可いかに思おもひの流ながる也

菅原道経

庭よせつる夕ゆふ暮ぐらまの下のあやもまらるまら海うみらる
夕ゆふ暮ぐらまのあやまらるまら海うみらるまら

小侍道

○侍よよ更りぬるにさびらぬれ乃も世にまのこ
夕を熱き昔も古人もさし時よひあはれり侍り接
ねさぬ人もこの夕はさしぬる人をも侍り
一もさる時におのひも海を侍りお中又初夜
後ねと更りよきとさしぬる人もさしぬるも
の侍りさしぬる人もさしぬる人もさしぬるも
かんとさしぬる人もさしぬる人もさしぬるも
さしぬるもさしぬるもさしぬるもさしぬるも
更りよるもさしぬるもさしぬるもさしぬるも
ひまきあはれぬるもさしぬるもさしぬるも

清原元輔

大井川舟を流す水のさしぬるもさしぬるも
堰埭も水もさしぬるもさしぬるも
さしぬるもさしぬるもさしぬるも

定家

○わらわはつゝもさしぬるもさしぬるも
あはれハタもさしぬるもさしぬるも
さしぬるもさしぬるもさしぬるも
さしぬるもさしぬるもさしぬるも
晚風催意とさしぬるも

接政殿

○つゆとせむもいねあゆむに福也ものさし端乃月
 だよとのみ字をわくまゝに成行り人をさしぬりな
 毛月をさすものからいふにむすことたのむる夕
 子と成りこらなりとねと成りつるさるるさるり
 幽ゆゑきよけり。あはるうよま字二字をさす心と成り
 するおり。千五百番要合す

宮内

いふやみうのらんなる同もねよきするさるるありと
 待たねよとさるるのあひかり成りあはるる
 まるるよとさるるてさるる成りあはるる
 是福よとさるるてさるる成りあはるる
 全一。さるるあはるる。後よとさるるさるり
 おるるさるるさるる

鴨長明

○さるる人さるるのさるるよとさるるね同乃と
 人もさるる人ともさるるさるるさるるのむ人を
 さるるにさるるのさるるね同乃とさるる
 よとさるるさるるさるるさるるのさるる
 なるさるるさるるさるるさるるさるる
 さるるさるるさるるさるるさるるさるる

飯原秀純

さるるさるるさるるさるるさるるさるる

今あはれしちまはらひはなれはこ乃夕くれの月やうらん
 けふも又あはれしちまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 ねむるねむるを志の目とせぬらん夕くれの月やうらん
 なるらん。月やうらんは月やうらんたるらん。いん
 と入てまはれしちまはらひはなれはこ乃夕くれの月やうらん

式部内親王

○志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん

はなれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん

式部内親王

○志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん
 志と移るもらぬまはれはこ乃夕くれの月やうらん

こたはる書むまゝにわりの月なれど切なやうな
なるとまゝにわりの月なれど切なやうな
すゝこゝろの月なれど切なやうな
乃ちまゝにわりの月なれど切なやうな

女法師女

○よのつゆの月なれど切なやうな
洞寺の三條院とての宮とやうな時久しくとて
けりけりもわりの月なれど切なやうな
あていひもまゝにわりの月なれど切なやうな
おちかくもまゝにわりの月なれど切なやうな
とらまゝにわりの月なれど切なやうな

らじうの月なれど切なやうな
あていひもまゝにわりの月なれど切なやうな
おちかくもまゝにわりの月なれど切なやうな
とらまゝにわりの月なれど切なやうな

家持

あていひもまゝにわりの月なれど切なやうな
おちかくもまゝにわりの月なれど切なやうな
とらまゝにわりの月なれど切なやうな

近江法師

あていひもまゝにわりの月なれど切なやうな
おちかくもまゝにわりの月なれど切なやうな
とらまゝにわりの月なれど切なやうな

川つらふもよみいづるふりていふことさういふなり

入道希園白太政大臣

とけらうけりて海無一人あつたら世よあつた思ひあつた
我くわが我わくも河也。わがわがつらふことさういふ人
思ひこらひもあつた。この世よとあつた思ひこらひ
わがわがわがわがわが。この世よとあつた思ひこらひ

返因

とけたのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ

あつた

左馬持家通

○はつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
待楽門院かきあつた

あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ

あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ
あつた。とけのあたふ人のあつた。とけたてうへ又とけうみ

殿富門は太補

梅政殿

○人さすたのちあ月ららるる昔はねよまのやと
 月の必とん侍人とと乃さくおらおら成ぬれ
 られはまもあくおらととれあまといひて
 いちさるよ也もれも人のやうな忘れ結い
 とあつて人の思ひまものあつて音也同
 なり

藤原秀能

○人さすたのちあ月ららるる昔はねよまのやと
 源氏物語のよまよの宿れあつてをこりてあり人
 とし控ふるわくは蓬津のよあねると月のあつて

かまもさる紙ひらりおはてとてれはかうもゆるゆも
 す。人さすたのちあ月ららるる昔はねよまのやと
 別人の尚頼とあ屋の南はらやもる村のよ月
 び五文字切なるあつてなり

梅政殿

○人さすたのちあ月ららるる昔はねよまのやと
 いららるる紙ひらりおはてとてれはかうもゆるゆも
 てとららるる紙ひらりおはてとてれはかうもゆるゆも
 いららるる紙ひらりおはてとてれはかうもゆるゆも
 ちるあつて月のあつてとてれはかうもゆるゆも
 いららるる紙ひらりおはてとてれはかうもゆるゆも

「さうらふよふ人わらへするの浦よきもわらへするをさよ
けりさうらふと邂逅と書てされと云河也奇なりて心
を伝ふあり

定家

松中らまじし人ハ川ねきて神ハ信よ乃ら月う斗
新本言されえと云神を志り川東乃松山彼こ川と云
よるハ本言乃る也とらさり一人ハ川ねきて我神の海
の波のこくもえと云也松山とらさりては整り此愛
ずさうさういひもなうらるわらへ海の神をさ
えとらさりてはわらさるざうてさびの月わり愛
とらしてめりさうら

俊成女

○なまひうたは傳もさうて侍とて一丁の庭乃もさふ
我宿ハさきもなまひうたわらさうつさふと人を侍はしな
まはら傳と云るを志しねど人のこもむらひを滅
と乃と思ひては神庭のまもさうとらさうて
月日をえと云傳也又流ハは女文字心はく。伝
傳と云るも今さうはなまひをいふも也とら
時ハ庭のまもさうのまひさうもさうらり
侍ハ今ハなまひとてさうとらさるるを乃
まもさうといふもさうなまひ又庭のまもさ
あくもわらひもさうとらさるるもあり

通光

神よふくへさうまきさうさきさのふらうさ
源氏末橋花の巻よ

引 影ても我うささめりもきささきささきさ
ちうさ蓬うふのうささきささきさ
ねくも後よ又さきさきさきさきさきさ

定家

志ねさきさきさきさきさきさきさきさ
奥はねきさきさきさきさきさきさきさ
あさきさきさきさきさきさきさきさ
りさきさきさきさきさきさきさきさ

隆政殿

いささきさきさきさきさきさきさきさ
あさきさきさきさきさきさきさきさ
とさきさきさきさきさきさきさきさ

家隆

おたきさきさきさきさきさきさきさ
うねさきさきさきさきさきさきさきさ
さきさきさきさきさきさきさきさ
さきさきさきさきさきさきさきさ
さきさきさきさきさきさきさきさ
さきさきさきさきさきさきさきさ
さきさきさきさきさきさきさきさ

うれいかなとぞそねのねらけりもぞと知りぬまき
那やう乃音かたり

椿中納言の経

あこれなる心のやれゆらもくちねのまをくらねり
逢不遇あきざあか恋こひの言かたり。あこれなる心よてありしゆも
乃ねのまをくらねりもくちねのまをくらねり也

右後膳通具

契りさやわぬあまをけり咲りうる人なれり
あつさくしりね見るねはらさきさきさきさきさき
咲くしりさき物さきとある音のねさけりさきさき

麻蓮

○ねらひし今この身なれも思ふねりゆも言なり
うらみし人なれり。あつさきさきさきさきさき
今なれりさきさきさきさきさきさきさきさき
ゆなれりさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
かなる詞也。さきさきさきさきさきさきさき

宣社門院丹後

さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

と待たれどやたのめる夕八はしりよけりてふらや
尾上の文八あはれお世はしりわおといひてんこあまの
名原をとり出るよや又尾上の言のよのけりてふら
乃縁ももたし侍りてを風情をわたり

雅經

茶枕しよんてんてんてんてんてんてんてんてん
本言てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
たてふらり

家隆

○てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
林の夕たてんてんてんてんてんてんてんてん
風のひふらてんてんてんてんてんてんてんてん
なくとををてんてんてんてんてんてんてんてん
ハ際ひ侍りてんてんてんてんてんてんてんてん
吹くゆ人の目もみ侍りてんてんてんてんてん
しんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

秀能

○思ひのめさてんてんてんてんてんてんてんてん
は言のてんてんてんてんてんてんてんてん

むらさきのあまきばらけのまのあ。ゆきかきくち
けしきくちのまのあをわづらひのまのあにせしむ
なごさむやとふてんあまのあにせしむ。我のあ
ゆるもあまのあにせしむ。世にせしむ。松乃のあ
なる。一室のあにせしむ。

宮家

○消しぬるち中人の松乃のあにせしむ。のまのあにせしむ
松乃のあにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
なり。人のあにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
らぬ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ

寐蓮

○あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
人のあにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ

慈回

我のあにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ
あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ。あにせしむ

もあつてさういふ人をもたせぬか
よ一人をさういふ人をもたせぬか
よ一人をさういふ人をもたせぬか
思はれぬやうに思はれぬ言也。法るはる
思はれぬやうに思はれぬ言也。法るはる
思はれぬやうに思はれぬ言也。法るはる
思はれぬやうに思はれぬ言也。法るはる

太上天皇

袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
破志慮の心とあり人の心の極りらるるを
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか

いづく袖もあつたあつた法る人をもたせぬか
袖のあつたあつた法る人をもたせぬか

宣家

世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか

家隆

〇世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか
世はより袖のあつたあつた法る人をもたせぬか

さす物とあふりしをなすね侍はちりり一人は
ど松の梢くわありとけり。る意の本言のたかめ也

女子月親

いそそくもあはれそ人いししはゆきをこころへ
人さしあはれしる也。最もあはれそ人いししはゆきをこ
か。いのちのちよびゆきをこころ切よ。いししはゆきを
よ 進みり

わしむるまをまを人いししはゆきをこころへ
そそ人いししはゆきをこころへ。我も也。詩も。ぬびるすわり
旅館無人暮雨免び人らも我も也。西出陽関無故
人は人さそ。我も也。まのこころ。すまも。詩も。多し

意圖

○あつきの海や宮またくらん袖をさぐる種乃多那
種乃多那とあつきの種乃多那をこころへ。あつきの海
一。意よ。いししはゆきをこころ切よ。いししはゆきを
いししはゆきをこころ切よ。いししはゆきをこころ切よ。
よたうらん袖の海のはりありて。種乃多那のさやう。ゆ
いししはゆきをこころ切よ。大事乃多那

宣家

るんつしあつきの海にさぐる種乃多那のさやう
あつきの海にさぐる種乃多那のさやう。大事乃多那

雅經

○ん人の面影とては見えぬ神に寄る波のうら
清見の雲の流のまを流るるにたもけとあまの
いさやうなるものなり寄る人ともいふ色のあがたなり
とあまのつり神よとたえとつりふとあまのつり
なり拾遺集なり

後成女

ありのまう時面は神は枯れ汁といひしつちを流るる
枯れ汁といひしつちを流るるまを流るるえはまを
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり
るる神もあまのつり

戀弄五

宮家

○白妙の神のふねはあちちとあまのつりあまのつり
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり
いしむ枕詞也神のつりあまのつりあまのつり
乃枯れ汁といひしつちを流るるまを流るる
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり
あまのつりあまのつりあまのつりあまのつり

家降

○おとろひのつりあまのつりあまのつりあまのつり

ちりちりいふ思ふ思ふにふくむらん世の
まじりたるあはれしけりたのちあはれ人の
こころのさへさへさへさへさへさへさへさへ
をよめさへさへさへさへさへさへさへさへ
乃くくさる海のさへ

三回

○病への流はさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
病の上はさへさへさへさへさへさへさへ

又味よらそつふなり。分別あることをや

藤原惟成

萩乃や露のちさよあつげはさへさへさへさへ
あつぎはやくてなり。さへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ

相模

○さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ

しらべしつゝおぼえなきはあはれなるにせしむるは
宮家も
いふやうにわがのこころはとほくはなほのこころ
はあはれなるにせしむる

回

○おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたのこ
ころはとほくはなほのこころはあはれなるにせしむる
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたのこ
ころはとほくはなほのこころはあはれなるにせしむる
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたのこ
ころはとほくはなほのこころはあはれなるにせしむる
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたのこ
ころはとほくはなほのこころはあはれなるにせしむる

まはれぬら入るるをかんはせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの

回

おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの
おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの

人丸

○おぼえなきはあはれなるにせしむるの中へたの

そくくハ席のお名也。されも別るちいと記若といつり。そ
ハ友好のいふあれど。席の子の心たる。つらうの角れ生
るし。しころるハ。手一集る。つらあ。半の字をつら
よら。つらとは。少の耳也。時のこも。こねを。思はす。つら

実家

ふきやう。う乃黒髪。乃。さら。て。か。ら。を。福。面。籠。う。ら
れ。そ。ハ。人。杖。を。あ。う。て。か。み。を。と。り。さ。ま。て。こ。ゆ。を。あ。ら。わ
る。ん。ず。ら。を。と。り。あ。ら。わ。す。物。の。こ。ら。う。り。や。り

後節如

○夏。こ。ら。の。つ。も。は。ら。ら。し。も。こ。ね。を。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
隆。名。遇。意。を。こ。路。也。二。座。の。つ。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す

よ。ら。い。つ。ら。ら。夏。と。れ。そ。ハ。又。こ。ら。の。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら
と。ね。も。又。う。け。の。や。う。め。の。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
河。つ。い。き。流。る。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す

女子同親王

ん。こ。ら。の。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
命。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
い。の。ら。の。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す
ね。人。の。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す

并

あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す。つ。ら。あ。ら。わ。す

君の中の水は清くも濁りぬ人の心は
 濁中の清水も濁る人の心は濁る

伊勢

出づるは人の心もさながら
 我一もよはたしむる心は
 濁れぬ心も濁る心も
 濁らざる心も濁る心も

左原業平

出づるは人の心もさながら
 伊世地ふの心もさながら
 人の心もさながら

今昔をわきまを
 うまひする

藤原惟成

〇人の心もさながら
 五世の心もさながら
 心ありは人の心もさながら
 ありとも人の心もさながら
 心もさながら

堀江

〇人の心もさながら
 人の心もさながら

てゆく^{せう}命^{めい}のうらたはよまにんまの河川に流れ
ちる^{せう}命^{めい}のうらたはよまにんまの河川に流れ

藤原元三

世のうらたはよまにんまの河川に流れ
世のうらたはよまにんまの河川に流れ
—うらたはよまにんまの河川に流れ

藤原元三

世のうらたはよまにんまの河川に流れ
世のうらたはよまにんまの河川に流れ
—うらたはよまにんまの河川に流れ

〇うらたはよまにんまの河川に流れ

うらたはよまにんまの河川に流れ
うらたはよまにんまの河川に流れ
うらたはよまにんまの河川に流れ

うらたはよまにんまの河川に流れ

うらたはよまにんまの河川に流れ
うらたはよまにんまの河川に流れ
うらたはよまにんまの河川に流れ

うらたはよまにんまの河川に流れ

回

〇うらたはよまにんまの河川に流れ

葉古三

あはしくわいふもたしめしむらんをあらわすわが
 なら。夜ふたしたる人となをたれしむらんをあらわすわが
 奇の心にまじりてむらさきにあらわすわがわが
 寝てふわいふもたしめしむらん

回

逢ふもたしめしむらんをあらわすわがわがわがわが
 おちつたふもたしめしむらんをあらわすわがわが
 とふもたしめしむらんをあらわすわがわがわがわが
 わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが

回

〇〜むらさきの心にまじりてむらさき

跡^のの^の後^のと^のお^のは^のあ^の水^をを^まり。昔^ゆ雄^ぢ男^ぢ天^{てん}皇^{こう}が
 幸^あを^はら^ため^りは^らし^めて^おこ^しら^れし^と。跡^のの^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の
 心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^のは^のあ^の心^この^のあ^の

回

大いなるわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが

のうのねのそく。海をせうく。くさるるねと
みくゆふ。油をうね。うねむく。ねむく。ねむく。
ならく。の。業正三。うねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。

可

○白浪のうねむく。海をうねむく。ねむく。ねむく。
ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。

うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。

可

うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。
うねむく。ねむく。ねむく。ねむく。ねむく。

あつらひなり。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
をいひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
人のもいひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
と。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
伊勢物語

いひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
いひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
いひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
いひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも
いひたる。わを渡わたの字よりいひたる也。我々のも



